

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。

【研究課題名】	抗がん剤によるがん細胞の免疫応答性の変化	
1. 研究の目的と方法	<p>これまで、膵がん患者に対して標準化学療法(ゲムシタビン+アブラキサン)併用 WT1 樹状細胞ワクチン療法の臨床試験を実施してきました。その結果、従来の化学療法単独と比較し、生命予後が優れた方がおられました。つまり、WT1 樹状細胞ワクチンによって強化された免疫の力は、抗がん剤の治療を行うことで膵がんの細胞をより効果的に攻撃できるようになると考えました。</p> <p>これまでの実験で、抗がん剤の一種であるゲムシタビンをがん細胞に使うと、WT1 ワクチンによって活性化された免疫細胞が、がん細胞をより攻撃しやすくなることがわかっています。そのため、標準的化学療法(ゲムシタビン+アブラキサン)と WT1 樹状細胞ワクチンを組み合わせることで、治療の効果が高まる可能性があります。</p> <p>今回は、膵がんの治療でよく使われる「ゲムシタビンとアブラキサン」という抗がん剤の組み合わせが、免疫の働きにどんな変化を起こすのかを、膵がんの細胞を使って実験レベルで調べます。</p> <p>注)WT1 とは、さまざまな腫瘍に存在しているたんぱく質のひとつです。この WT1 蛋白質を細かく分解したアミノ酸が WT1 ペプチドです。WT1 ペプチドを樹状細胞に添加(パルスといいます)したものが、「WT1 樹状細胞ワクチン」または「WT1 ペプチドパルス樹状細胞」といいます。尚、「WT1 樹状細胞ワクチン」と「WT1 ペプチドパルス樹状細胞」は同じものです。</p>	
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2030 年 12 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。	
3. 対象となる方等	<p>先行研究①「切除不能膵癌に対する標準化学療法併用 WT1 樹状細胞ワクチン療法(2018-01)」、②「進行膵癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタビン併用 WT1 ペプチドパルス樹状細胞療法第 I 相臨床試験(21-204(6082))」に、ご参加いただいた方で、がん細胞が凍結されている方(合計 4 名)。</p>	
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	東京慈恵会医科大学附属柏病院臨床医学研究所で凍結保存してある膵がん細胞です。
	(2) 試料の取得の方法	上記研究①と②で得た試料の二次利用になります。
	(3) 情報の種類	診断名：膵がん、性別、年齢
	(4) 情報の取得の方法	<p>先行研究①「切除不能膵癌に対する標準化学療法併用 WT1 樹状細胞ワクチン療法(2018-01)」または②「進行膵癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタビン併用 WT1 ペプチドパルス樹状細胞療法第 I 相臨床試験(21-204(6082))」で取得されたヒト膵がん細胞を二次利用します。診断名(膵癌)、性別、年齢以外の臨床情報の提供は一切ありません。</p>
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。	

	試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学附属柏病院 消化器・肝臓内 科
		氏名	小井戸薫雄
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 癌幹細胞制御学寄附 講座 寄附講座教授 岡 芳弘 (国立大学法人 大阪大学 共創機構 副機構長 藤尾 慈)	
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 なお、診断名（腓癌）、性別、年齢以外の臨床情報の提供は一切ありません。 試料・情報の利用開始予定日：2026 年 1 月頃～		
【問い合わせ先】	<p>機関名：東京慈恵会医科大学附属柏病院 消化器・肝臓内科 研究責任者：非常勤講師 小井戸薫雄（こいど しげお）</p> <p>非常勤講師 小井戸薫雄の連絡が取れない場合、 東京慈恵会医科大学附属柏病院 消化器・肝臓内科 准教授 内山 幹（うちやま かん）</p> <p>電話番号：04-7164-1111 （内線：3202） 対応時間：平日 9：00 ～ 16：00／休診日を除く</p>		

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。